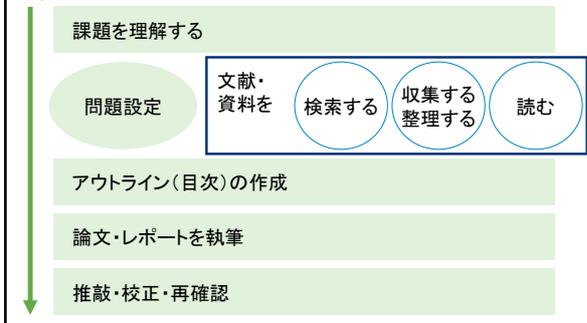


論文執筆の流れ



だが、無数の文献の中から、何よりも**知っておくべき**

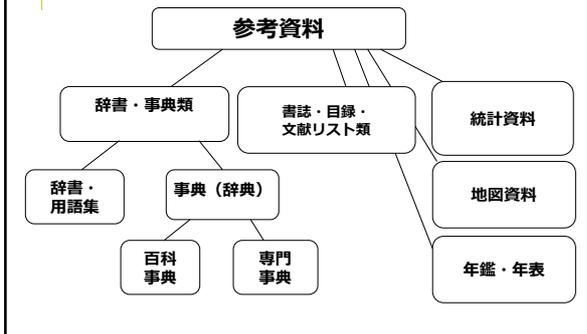
文献は、どうやって探す？

- 1) 誰もが知っている「**基礎文献**」
(**参考資料**から調べる)
- 2) 最新情報
(インパクトファクターの学術記事～後々の授業で！)

参考資料とは？

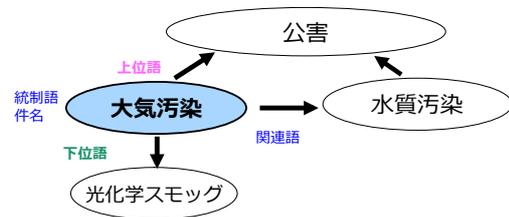
評価が確定した事項や語彙をキーワードに、「通読」するのではなく、「参照」する、「引く」ことを想定して作成された資料（例えば百科事典類）

「参考資料」の分類と種類

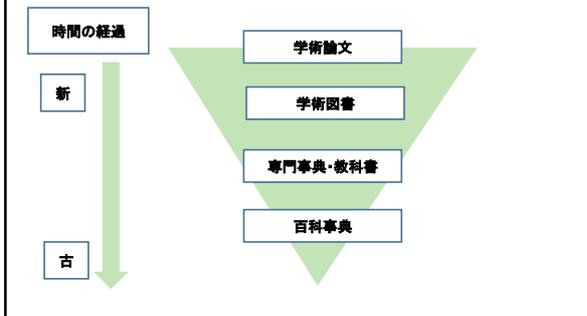


「何を探したいか」のキーワードと構造化

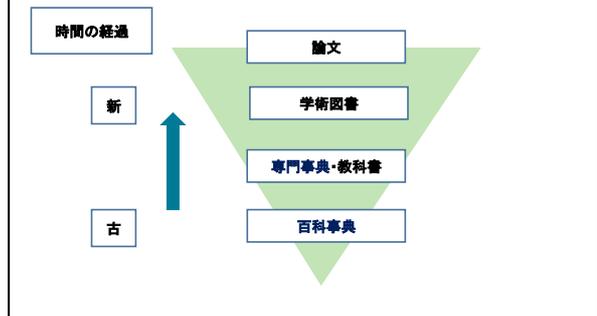
参考資料を活用し、位置、上位下位、関連語を定める



「知識」は一定の方向へ収まっていく
(「新説」による急変化もあるが)



論文を先行研究に基づいて書くので、基礎文献を理解した上、最新情報まで調査して研究を修める



大学レベルの論文の作成

論文とは？

(今後授業などで課されるレポートには、分野によって、小論文の場合と、単なる調査・実験の報告でよい場合とがあるため、授業ごとに確認すること。ここでは「小論文」を発展させた「論文」について概説する)

① 存在価値(自分で独自に問題を設定し、論理的、説得的な結論を持つもの)

論文は、小説・演劇脚本などとは異なり、未解決の問題を論理的に解明するもの。高等学校までは、あらかじめ問題が与えられていたが、大学では自分で問題を設定し、先行研究(著書や論文)を踏まえて独自に解決する。その際、設定された問題自体の重要性や意義についても意識的であること。

② 発展(先行研究の不十分な点・問題点などを指摘した上で、自分の考えを論理的、説得的に述べる)

論文は報告書・事実の纏めとは異なり、既存の知見に+ α の情報や見解を加えたもの。

③ 立場(脱個人=客観普遍。誰でも同じ結論となるよう、論理的、説得的であること)

論文は、エッセイや感想文・評論のように「自分がどう思うか」ではなく、客観的事実・論理的結論を提示することが目的。

論文の展開法:以下の方法を適宜用いながらトピックを展開する

① 概説・解説:これまでの研究成果・情報を時間軸に沿って簡単にまとめる。これは論文(レポート)では必須。その際、自分の着眼点や執筆目的を常に意識していないと、単なる報告書になってしまう。

例)日本の1990年代を振り返り概観する、というテーマは大きく、漠然としすぎ。

② 分析:複雑な事柄を単純な要素・パーツに分解して順序立てる。

例)1990年代のバブル崩壊を取り上げ、地価の下落・不良債権の増大・大手金融機関の破綻に分解。

③ 比較:2つ以上の事柄の共通点・相違点を指摘する。

例)日本のバブル崩壊と2000年代のアメリカのサブプライムローンと比較し、共通点・相違点をまとめる。

④ 類推:共通点の指摘から推測をする。

例)日本のバブル崩壊とアメリカのサブプライムローンが類似。→共通した要因が指摘できれば、サブプライムローンのその後の流れが予想可能かも知れない。

⑤ 相違:相違点の指摘と分析により、個別の要因を提起。

例)バブル崩壊では企業が、サブプライムローンでは一般の家計が、それぞれダメージを受けた。

⑥ 新しい仮説:通説が本当なのか検証し、新しい仮説を提起・立証。

例)バブル崩壊もサブプライムローンも一見類似しているが、ダメージを受けた側が異なっている。そこには、それぞれの国民性が関係しているのではないかと？

⑦ 新たな概説・解説:日本・アメリカ双方の国民性について。(以下、分析・比較・類推・相違・新しい仮説・・・を適宜繰り返す)

自分の興味ある領域の中から、論文のテーマを絞り込む

① まず自分の興味・関心を踏まえ、論文のテーマを整理する。

論文を論理的に展開するには、起承転結を備えた簡単なアウトラインが必要。しかし、いきなりアウトラインは書けないので、はじめに自分の関心のある事柄をなるべく具体的に挙げてみる。

例)日本のサンゴ礁の分布変化と温暖化/森鷗外の歴史小説について

② 事前調査

論文のテーマは、いきなり細かな部分から取り組むのではなく、まずは大きな枠組の中でアプローチし、次第に詳細な事例へと移っていく。概説→詳細、抽象→具体、上位概念→下位概念へとたどっていく。

例)環境工学/日本近代文学 → (キーワード)サンゴ礁・温暖化・日本/森鷗外・歴史小説 → (キーワードの上位語・関連語・下位語を書き出す) 環境問題・岩礁・二酸化炭素・石垣島/日本文学・近代文学・高瀬舟

参考図書を探して引き、基本文献を確認する

- ① 参考図書(濃縮情報ツール)=百科事典や図鑑、専門事典、教科書などの解説本
例) 百科事典: 小学館『日本大百科全書』、[Encyclopaedia Britannica](#)
専門事典・地域的な事典: 『社会学事典』、『アメリカを知る事典』、『日本近代文学大事典』
- ② 参考図書(冊子体)の引き方
 - 1, いきなり項目を探すのではなく、必ず索引から引き、項目・掲載巻・ページ・記号を書き出す。
 - 2, 凡例に目を通し、記号などの意味を確認する。
 - 3, 情報の偏りを防ぐため、2種類以上の参考図書を利用する。
- ③ 探していたテーマの解説のほかにも、参考図書から分かること
 - 1, 自分のテーマのメジャー/マイナー度 例) 項目の説明が長い=メジャー度が高い
 - 2, 自分のテーマの権威者は誰か (第一人者が百科事典の記事を書く→その著作をチェック)
 - 3, 自分のテーマの基礎文献は何か (ただし、平凡社など多くの日本の百科事典にはない)

学術データベースの活用

- ① 冊子体よりも遥かに多くの情報源に瞬時にアクセスできる。
例) 他大学の所蔵をチェックできる kuline の他大学検索、多数の辞書・事典を検索できるジャパンナレッジ。
- ② 最新の情報が得られる。本屋のサイトにアクセスすれば即注文できる。例) amazon, 日本の古本屋。
- ③ 記事(新聞記事や論文)を画面上で公開し、コピー可能なサイトがある。例) ヨミダス歴史館、CiNii。

インターネットの短所

- ① インターネット一般(特に個人や団体のホームページ)には、誤った情報や偏った情報が記載されることもあり、注意が必要。その分野の専門家でないため、記事自体の信頼性が薄いこともある。
- ② ホームページの内容は刻々と変化する(論文を提出する時に無くなっていることもある!)ため、必ずサイトのアドレスと閲覧日時をメモしておくこと(普通印刷した時に表示される)。

学術データベース利用のコツ

- ① 検索結果が多すぎる場合は、ノイズを回避するため下位語やフレーズを使う。データベースによっては、論理積 (and)、「追加キーワード」、「検索期間」で数を絞り込める。
- ② 見付からない場合は、論理和(or)を使う。また、関連語や上位語を何回か変えてみる。
例) 『三国志』/魏/蜀/呉/劉備、ジョン・レノン/ビートルズ、森鷗外/明治文学

論文作成では、実行可能な計画を入念に立て、着実に一歩ずつ進む

- ① 参考図書から基礎文献へ、基礎文献から個別の論文へと読み進め、さらに関連文献も読んで、先行研究の補足、一部修正、新説の提示等が可能との手応えが得られれば、アウトラインを作成し、論文執筆へと進む。論文末尾には注や参考文献を記し、どこに自分独自の着眼や新しい見解があるか、明らかにする。
- ② その課程で、計画(長期・中期・月間・週間など)を立てる習慣をつける。〇月〇日までに〇〇を読む/〇〇枚まで論文を執筆する、など。計画やアウトラインなしで書き始めても、必ず行き詰まる。
- ③ しかし、関係論文を読む中で、「自分が付け加えることはもうないのでは?」「自分の言いたいことはすでに言われていた!」ということも多い。その場合は、関連する別のテーマに移るか、あるいは、細かい事柄でもいいので先行研究を補足・修正する(ささやかではあっても研究が進めば良い)。
- ④ メモ魔になる。手帳やワープロに、とりあえず自分の思いつきをメモしていく。それらを読み返す中で、意外な名案が浮かぶこともある。一見つまらないことでも、それが大きな成果に繋がることもある。
- ⑤ 原稿の推敲・読み直しには、書くのと同じぐらいの時間・エネルギーが必要。
- ⑥ 第三者から読んでもらうことで、自分では気付かない点、見落とした点が指摘される。忌憚のない意見を言い合える友人は、研究者にとって人生の宝といえる。

課題

基本文献を探し出す

1. テーマを設定して、参考図書を探す

- A. テーマを決める 自分の興味・関心のあるテーマを言葉で表す。
例) 日本のサンゴ礁の分布変化と温暖化/ 森鷗外について
- B. 分野を特定する アプローチする分野を書き出す。
例) 環境工学 / 文学
- C. キーワードを考える テーマを絞り込んだら、主なキーワードを考える。
例) サンゴ礁・温暖化・日本 / 森鷗外・明治文学
- ◇ 主なキーワードの上位語(広義)、関連語(同義)、下位語(狭義)を書き出す。
例) 環境問題・岩礁・二酸化炭素・石垣島/ 日本文学・近代文学・舞姫

2. 参考図書引いて、基本文献を探す

- D. 参考図書を探す アプローチする分野の参考図書を挙げる。
例) 地球環境工学ガイドブック/ 日本近代文学大事典
- E. 索引を引く まず索引を引いて、項目および項目が掲載された巻・ページ・記号を書き出す。
例) 「も」から森鷗外を引く → 森鷗外、23 巻、35D / 舞姫、21 巻、801B
- F. 役立つ項目を探す メモから属する項目を確認して役立つ情報が載った項目を選び、執筆者を挙げる。
例) 項目: 森鷗外、執筆者: 磯貝英夫
- ◇ このとき項目中に基本文献の掲載があるかを確認する。
基本文献が掲載されていない場合は、
関連する他の項目(執筆者等)から基本文献を探す。
見つからない場合は他の参考図書をあたる。
- G. 基本文献を確認する 選択した項目に挙げられている基本文献を書き出す。
著者名、書名(あれば出版年)を記入せよ。
例) 書名: 『鷗外森林太郎』、著者名: 森潤三郎、出版年: 1934 年
- H. 文献の所在を確認する G.の資料の所在を確認する。
例) 附属図書館、書庫 B2、5-62||オ||37
- ◇ KULINE やカード目録を使って検索する。京都大学の図書館にない場合は KULINE の
他大学検索機能を使って最寄りの大学図書館を調べる。
(この授業の実習では京都大学の図書館にある文献を検索する)

例 「百科事典」を引く

「森鷗外」の掲載ページ



森鷗外

基本文献



時に、対極の虚無思潮を展開しつつ、しだいに史のなかに模索していつかの緊張感は、「石見人ト欲ス」と書いた遺言にある。自然主義系の文互に疎んじ合った。鷗外といった者はもたなかつた。

川龍之介、石川淳、三島由紀夫らが数えられた。↓阿部一族 ↓キタ・セクスアリス ↓うたかたの記 ↓雁 ↓寒山拾得 ↓最後の一句 ↓山椒大夫 ↓渋谷抽斎 ↓青年 ↓高瀬舟 ↓舞姫 ↓妄想

④『鷗外全集』全三八巻(一九七〇年、岩波書店)
 ▼森潤三郎著『鷗外森林太郎』(一九四〇年・昭和書房)
 ▼石川淳著『森鷗外』(一九五二・三笠書房)
 ▼唐木順三著『鷗外の精神』(一九五三・筑摩書房)
 ▼小金井喜美子著『森鷗外の系族』(一九五三・大岡山書店)
 ▼日夏耿之介著『鷗外』

文学 (一九五三)
 『森鷗外』
 『森鷗外』文芸学試論(一九六三・雄山閣)
 ▼中野重治著『鷗外 その側面』(一九五三・筑摩書房)
 ▼小堀杏奴著『父——晩年の森鷗外』(一九五七・宝文館)
 ▼長谷川泉著『森鷗外論考』正統(一九六三・明治書院)
 ▼小堀桂一郎著『若き日の森鷗外』(一九六九・東京大学出版会)
 ▼古野俊彦著『森鷗外私論』正統(一九七三・毎日新聞社)
 ▼山崎正和著『鷗外 闘う家長』(一九七三・河出書房新社)
 ▼蒲生芳郎著『森鷗外 その冒険と挫折』(一九七四・春秋社)
 ▼竹盛天雄著『鷗外 その紋様』(一九七四・小沢書店)

「索引」より

もりおか

- モラン山 →アメリカ合衆国⑥619㉔
- モランテ,E 47[1111] 作家 ③1B
- モランディ,G 47[1111] 画家 ③1B
 ④ →イタリア美術②395A →形而上絵画⑧72D
- モーランド,G 47[1111] 画家 ③1C
- モランボン →ピョニヤン⑨792B
- もり →子守(民俗)⑤578D
- もり →そば④193C
- 社 →森③31D
- 森 大分 玖珠町 ③31C
- 森 ③31C
- 森 →姓名④472㉔D
- 森(町) 北海道 渡島支庁 ③32B
- 森(町) 静岡 ③32B
- 鋸 ③32C㉔㉔ →水中鉦⑧282D
- 母里 島根 伯耆町 ③32D
- モーリー,M.F 47[1111] 海洋気象学者 ③33A →海洋③706C
- モーリー,E.W 47[1111] 物理学者・化学者 ③33D →マイケルソン・モーリーの実験⑦94C
- モーリー,J 47[1111] →小イギリス主義⑩788A
- モーリー,C 47[1111] 編集者・作家 ③33D
- モリア →多幸症⑧722B
- モリアオガエル[森青蛙] ③33D㉔
 →アオガエル①96D →尾瀬④219B →八丁池⑧830B →郵便切手③375㉔
- 盛り上り咲き →バラ⑨92C
- モリアザミ ③34A →アザミ①263B
- 森教? [1111] 小説家 ③34A →芥川賞②200㉔
- モリアーティ →シャーロック・ホームズ④411A
- モリアネ →子守⑤579A
- 森有礼[1111] 政治家 ③34B㉔ →忠君愛国⑤412C →明六社⑦22D
- モリイチゴ →シロバナノヘビイチゴ④428C
- モリイノシシ →イノシシ⑤554B㉔
- モリイバラ ③34C㉔ →バラ⑨92㉔
- 森氏 →三日月落②268C
- モリエール 47[1111] 劇作家 ③34D
 ④ →『守銭奴』⑥654B →『スカパンの悪だくみ』⑧908D →『タルチュフ』⑨922C →『人間嫌い』⑩184B →フランス演劇⑤595A
 ⑥ →フランス文学⑥21A
- モリエール賞 →演劇賞③737A
- モリエールの家 →コメディ・フランセーズ⑤573C
- モリオ →ラン⑧816㉔

森鷗外 [1862] 文学者 ③35D㉔㉔

- 森鷗外 [1862] 文学者 ③35D㉔㉔
- 『阿部一族』①511B
 - 『キタ・セクスアリス』②347C
 - 居間②591
 - 『うたかたの記』③130A
 - 『於母影』④356B
 - 『雁』⑥88D
 - 『寒山拾得』⑥172D
 - 観潮楼歌会⑥236C
 - 『最後の一句』⑨827C
 - 『山椒大夫』⑩408D
 - 『しがらみ草紙』⑩613D
 - 『渋谷抽斎』⑩139A
 - 『スバル』⑬120C
 - 『青年』⑬413D
 - 『高瀬舟』⑭642A
 - 『舞姫』⑰801B
 - 『妄想』⑲823C
 - 歴史小説⑲351A

「日本大百科全書」第二版、東京、小学館、1994年-1997年、25巻(p.921)、23巻(pp.36-37)